

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.139

フリマアプリのトラブルにご注意!

【事例】

フリマアプリを利用したが商品が届かない。商品が違っていた。商品代金が受取れない。

このようなトラブルが起きています。フリマアプリは、オンライン上で実際のフリーマーケットのように、出品、購入ができるアプリケーションです。多くは運営会社が購入者から一時的に代金を預かり、品物到着後に出品者に支払う仕組みになっています。しかし、基本的に個人間の取引となるため、トラブルが発生した場合は当事者間で解決するのが原則となっています。取引の際には何かあれば「自己責任」というリスクを伴うことを認識して利用しましょう。

また、出品者の中にはマナーの悪い人や悪意のある人もいます。相手方の信用性はもちろんのこと、アプリの規約や出品者が設定したルール、商品情報等もしっかりと確認して利用しましょう。また、消費生活センターでは、個人間取引で起きたトラブルは相談対象外となっていますのでご注意ください。

おもてなしコラム 12

西脇市では、平成28年1月に「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。地域食材の魅力について認識を深め、その魅力を広く発信し、本市にさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課(市役所内線323)



市立北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」

地産地消で最高のおもてなし

北はりま旬菜館は今年6周年を迎えます。たくさんの地元の方々に来ていただいたおかげで、昨年末には来店者50万人を達成することができました。大変ありがたいことです。

西脇ではどんな野菜や果物が作られているかご存じですか。意外といろいろなものが作られているのです。

旬菜館では、定番の野菜や見たことのない野菜が色とりどり並んでおり、野菜の四季や旬を感じることができます。地元産使用の加工品もたくさん並んでいます。

生産者が愛情を込めて育てた野菜は、味も形もさまざま。その野菜がいろいろな方の手に渡って大切な誰かのための源となります。まさに地産地消、最高のおもてなしです。

朝、畑にあった野菜が夜には食卓に並ぶ。すごくぜいたくなことだと思います。それができるのは直売所ならではの醍醐味。いつでも北はりま旬菜館という畑へ収穫にお越しください。お待ちしております。

西脇市立北はりま農産物直売所 店長 藤本美千代



昨年の中学生親善使節団員ら(ネルソン中学、平成28年8月)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
—次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

西脇市中学生親善使節団員を募集

姉妹都市レントン市で異文化交流を体験しよう

西脇市・市教育委員会・市国際親善交流協会では、姉妹都市アメリカ合衆国ワシントン州レントン市へ派遣する「中学生親善使節団員」を募集しています。文化や生活様式、考え方の違いなどを理解し、たくさんの方の視界を広げるチャンスです。

昭和44年に西脇市とレントン市が姉妹都市提携を結んで今年で48年目を迎えます。この間、中学生親善使節団や市民使節団を相互に派遣するなど、交流を深めてきました。中学生親善使節団の派遣事業は昭和62年に始まり、今年も市内在住の中学3年生を対象に募集を行います。

これまで参加した先輩たちからは、中学3年生の皆さんに「この歳で海外の友達をつくることができ、想像以上に英語を習得できます。ぜひ挑戦してほしい。」との声が届いています。

この機会に異文化交流を体験し、自分を大きく成長させてみませんか。

◆派遣期間 8月16日(水)～25日(金) 26日(土)帰国予定

◆募集人数 14名

◆費用 個人負担8万円。その他の公的費用は市が負担します。

◆応募資格 市内在住の中学3年生(市内在住で市外学校に通学している者も可)

◆応募方法 所定の申込書と作文(目的や希望理由を指定原稿用紙両面1枚にまとめたもの)を学校教育課へ提出してください(郵送可)。申込書と原稿用紙は、市ホームページからダウンロードできます。

◆応募締切 4月20日(木)

◆応募・問合せ 学校教育課(市役所内線5336)

心のスケッチ

97

人権教育室コラム

すべての子どもに居場所のある学校を

色とりどりのランドセルを背負い、歩いて登校する小学1年生。新しい制服を身にまとい、新しい自転車に乗って中学1年生。新年度の幕開けとなる4月。子どもたちはそれぞれ自分の夢や希望を胸に抱きながら、学校生活をスタートしたことでしよう。子どもたちに出会い、思わず「頑張れよ!」「気をつけてな!」と声をかける朝のひとときは実にさわやかな時間となっています。しかし、毎日の暮らしの中においては、楽しいことが少なく、時には学校がいやになるような辛くて苦しい経験をする子どももあつてしよう。「でも、大丈夫。わたしがあなたを支えるから」と声をかけ、励ましてくれる友達をそばに。そんな学校であつてほしいと願っています。

先日、「すべての子どもに居場所のある学校をつくりたい」という強い願いのもとに産声をあげた小学校を舞台にしたドキュメンタリー映画「みんなの学校」を鑑賞する機会がありました。子どもたちは障害、貧困、不登校など多かれ少なかれ、それぞれに

さまざまな背景を持って暮らしています。この小学校ではそれぞれの子どもたちに、校長先生をはじめすべての先生方が実にきめ細かく関わられています。加えて、保護者も地域住民も一緒になって学校に集い、子どもたちを支え、一丸となって学校を創り上げようとしていました。その姿はとても印象的でした。育つ環境が原因で子どもたちが困っているのなら、その子どもたちを大人の手で何とかしようとしていたのでは。その後の講演で、元校長は「学校の主人公は教師ではなく子ども。いつでもどこでも夢や希望が語れる学校を」「子どもは地域の宝。保護者も地域住民も、そして教員も一つになって子どもたちと向き合おう」と語られました。実践の中から生み出された言葉の一つ一つが心にしみました。

「すべての子どもたちの存在がそのまま大切にされる学校を」。最後に聞いたこの言葉の余韻は今もなお心の奥で響いています。(人権教育室)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

39



西脇市長 片山象二

「西脇プライド」でまちを元気に!!

2月に「西脇市シティプロモーション戦略プラン」を策定しました。シティプロモーションとは、西脇市の魅力や地域資源を市内外に効果的に発信し、市のブランド力を高める取り組みのことです。

この中で、「西脇市への誇りを持って、まちの一員として関わろう」とすることを「西脇プライド」と定義しました。市外の人に西脇市の魅力を知ってもらうことはもちろんですが、住んでいる私たち



特別授業「市長ふるさとを語る」を市内小・中学校で実施

ち自身もまちに愛着や誇りを持ち、「西脇プライド」を育てていかなければならないと考えています。昨年度、私自身が講師として、市内すべての小学6年生・中学2年生に授業をさせていただきました。子どもたちと地域の産業や資源・歴史について学び合い、まちの未来について一緒に考えました。幼いころから地域の魅力に親しむことが「西脇プライド」を醸成することにつながっていくと信じています。今年度も多くの子どもたちとの授業を楽しみにしています。市では、戦略策定に合わせてロゴマークやプロモーション映像を制作しました。今年度は映像を通じて積極的に情報発信し、「選ばれる元気なまち西脇」を目指していきます。「このまちで住みたい、暮らしたい、帰ってきたい」と思われる「西脇市」をとともに創っていきましょう。